

200kW 国際放送設備

1962年（昭和37）200kW 国際放送設備を実用化した。これは64年の東京オリンピック放送を控え、100kW 送信機2台の並列運転による200kW 出力を62年までに実現する必要があったことから進められた研究の成果であった。この設備の電力合成方法として、対ヨーロッパ用には送信機2台が同時に同方向に電波を発射する空間合成方式、オリンピック放送用には一つの空中線から送信機2台の電力を発射する給電線合成方式が採用された。200kW 空中線系施設は64年度に完成し、オリンピック放送に活躍した。

出典：KDD 社史